

# 第 55 回「山形県内家計の消費動向調査」結果

## (令和 2 年 3 月調査)

消費マインドは 5 期連続で悪化。  
先行きも悪化の見込み

### 【調査の要旨】

- **消費指数**は、▲87.0 (前期比 9.9 ポイント下落)と 5 期連続で悪化となった。内訳は、景気判断指数が▲46.1 (前期比 8.1 ポイント下落)と 5 期連続で悪化、暮らし向き判断指数が▲40.9 (前期比 1.8 ポイント下落)と 6 期連続で悪化した。
- **今後の見通し**は、消費指数が▲101.6 (今回調査比 14.6 ポイント下落)とさらに**悪化の見込み**となっている。内訳は景気判断指数が▲54.5 (今回調査比 8.4 ポイント下落)、暮らし向き判断指数が▲47.1 (今回調査比 6.2 ポイント下落)と、ともに悪化が見込まれている。
- **大きな買い物**への支出意向をみると、「予定がある」と回答した世帯の割合は、「自家用車 (中古車含む)」「住宅 (マンション・中古住宅含む)・土地」で上昇した一方、「住宅リフォーム」と「海外旅行」で低下した。
- **家計簿調査**は、収入面では可処分所得 (収入の手取り額) が 432 千円と前年同期に比べて 41 千円の減少となった。支出面では支出計が 381 千円と前年同期比で 26 千円の減少となった。その結果、平均消費性向 (家計支出/可処分所得) は 88.2%となり、前年同期に比べて 2.1 ポイントの上昇となった。
- **冬季ボーナス**の支給状況について尋ねたところ、「支給された」が 76.8% (前年比 1.7 ポイント低下)、「支給されていない」が 23.2%と、前年と同様に 7 割以上の世帯が「支給された」と回答している。
- **最近の給与の実態**について、平成 31 年 4 月以降、定期給与 (残業代を除く) が増えたかどうか尋ねたところ、「変わらない」が 61.8% (前年比 0.4 ポイント上昇)と最も高く、次いで「増えた」が 20.6% (前年比 1.4 ポイント低下)、「減った」が 17.5% (前年比 1.0 ポイント上昇)となっている。

令和 2 年 4 月  
株式会社フィデア情報総研

## 目次

I.	消費指数（総括）	1
II.	消費指数（内訳）	3
1.	景気判断	3
（1）	景気判断の概況	3
（2）	景気判断の推移	4
2.	暮らし向き判断	5
（1）	暮らし向き判断の概況	5
（2）	暮らし向き判断の推移	6
III.	支出意向	7
（1）	支出意向DIの推移	7
（2）	支出意向（大きな買い物）の推移	8
IV.	家計簿調査	9
V.	特別調査	11
1.	冬季ボーナスについて	11
（1）	冬季ボーナス支給の有無	11
（2）	支給額の変化について	11
（3）	主な使い道	12
2.	最近の給与の実態について	13
（1）	定期給与の増減について	13
（2）	残業代の増減について	13
（3）	今後1年間における定期給与増額への期待感について	14
VI.	調査の概要	15

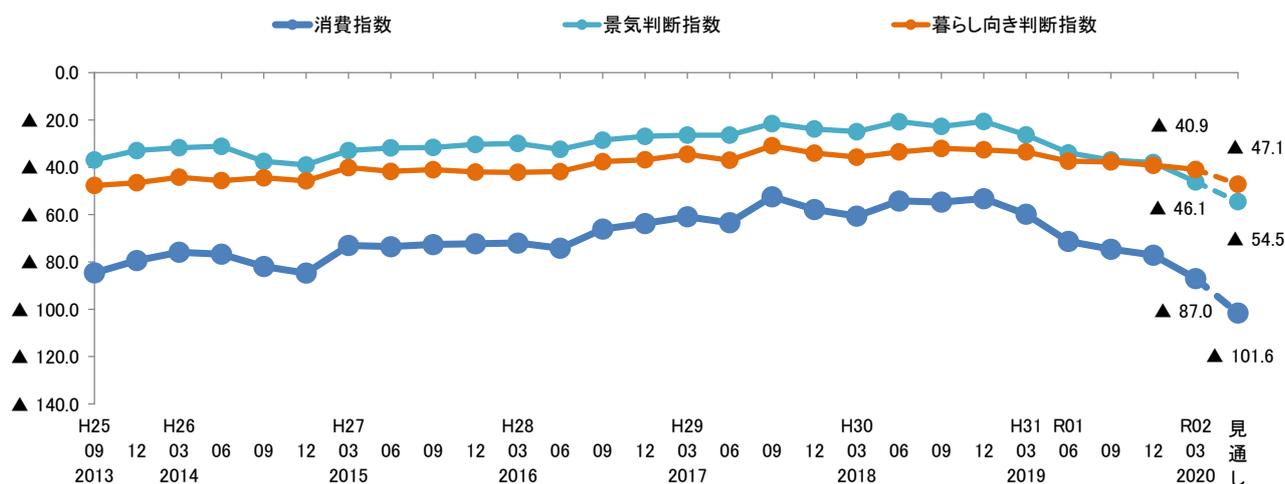
## I. 消費指数（総括）

### ～消費マインドは5期連続で悪化。先行きも悪化の見込み～

消費指数は▲87.0（前期比 9.9 ポイント下落）と 5 期連続で悪化となった。内訳は、景気判断指数が▲46.1（前期比 8.1 ポイント下落）と 5 期連続で悪化、暮らし向き判断指数が▲40.9（前期比 1.8 ポイント下落）と 6 期連続で悪化した。

今後の見通しについては、消費指数が▲101.6（今回調査比 14.6 ポイント下落）とさらに悪化の見込みとなっている。内訳は景気判断指数が▲54.5（今回調査比 8.4 ポイント下落）、暮らし向き判断指数が▲47.1（今回調査比 6.2 ポイント下落）と、ともに悪化が見込まれている。

図表 1 消費指数の推移



#### 【指数の見方】

消費指数は（1）景気判断指数（景気・雇用環境・物価の3項目で構成）と（2）暮らし向き指数（世帯収入・保有資産・お金の使い方・暮らしのゆとりの4項目で構成）の合計からなり、値は200～▲200の範囲をとります。指数がプラスであれば家計の消費マインドは高揚していると判断します。一方、指数がマイナスであれば、消費マインドは低迷していると判断します。

数値は四捨五入により一致しない場合があります。



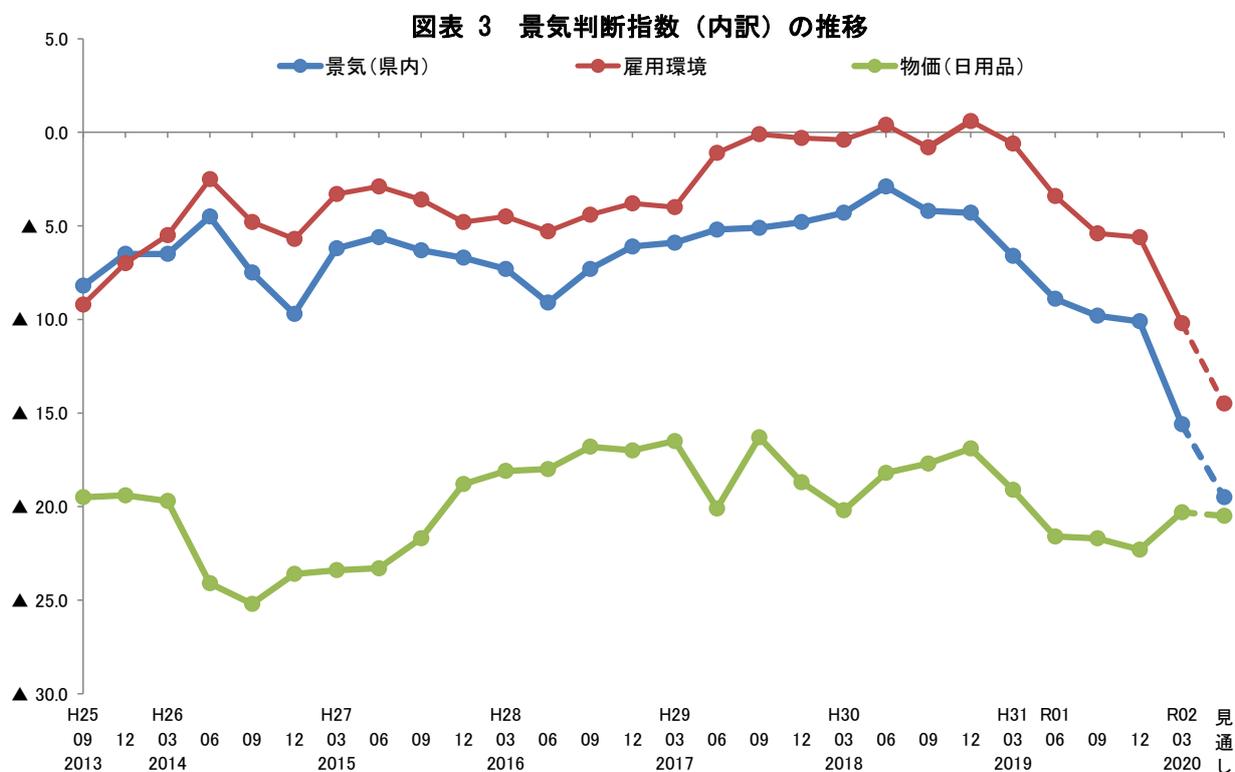
## II. 消費指数（内訳）

### 1. 景気判断

#### （1）景気判断の概況

景気判断指数は▲46.1（前期比 8.1 ポイント下落）と5期連続で悪化となった。景気判断指数を構成する3つの指数については、「景気（県内）」が▲15.6（前期比 5.5 ポイント下落）、「雇用環境」が▲10.2（前期比 4.6 ポイント下落）、「物価（日用品）」が▲20.3（前期比 2.0 ポイント上昇）と、「景気（県内）」「雇用環境」で悪化となった。

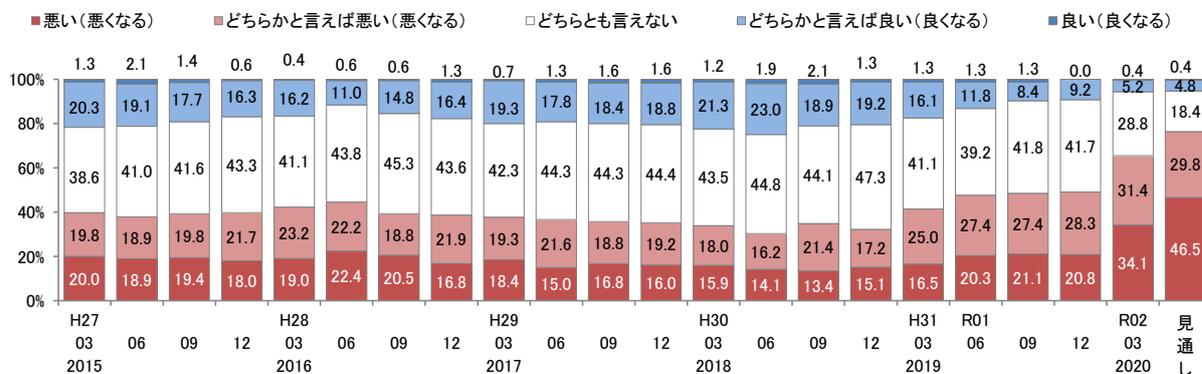
今後の見通しについては、▲54.5（今回調査比 8.4 ポイント下落）とさらなる悪化が見込まれている。



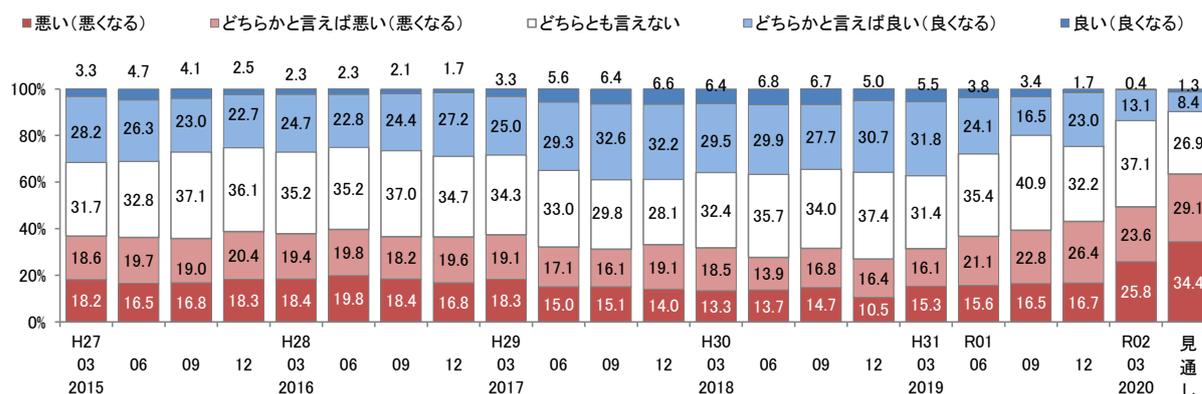
調査時期	景気判断指数				
	景気（県内）	雇用環境	物価（日用品）		
30年	9月	▲ 22.7	▲ 4.2	▲ 0.8	▲ 17.7
	12月	▲ 20.6	▲ 4.3	0.6	▲ 16.9
31年	3月	▲ 26.3	▲ 6.6	▲ 0.6	▲ 19.1
	6月	▲ 33.9	▲ 8.9	▲ 3.4	▲ 21.6
01年	9月	▲ 36.9	▲ 9.8	▲ 5.4	▲ 21.7
	12月	▲ 38.0	▲ 10.1	▲ 5.6	▲ 22.3
	3月	▲ 46.1	▲ 15.6	▲ 10.2	▲ 20.3
	(前期比)	(▲ 8.1)	(▲ 5.5)	(▲ 4.6)	(2.0)
	(前年同期比)	(▲ 19.8)	(▲ 9.0)	(▲ 9.6)	(▲ 1.2)
02年	見通し	▲ 54.5	▲ 19.5	▲ 14.5	▲ 20.5
	(前期比)	(▲ 8.4)	(▲ 3.9)	(▲ 4.3)	(▲ 0.2)

(2) 景気判断の推移

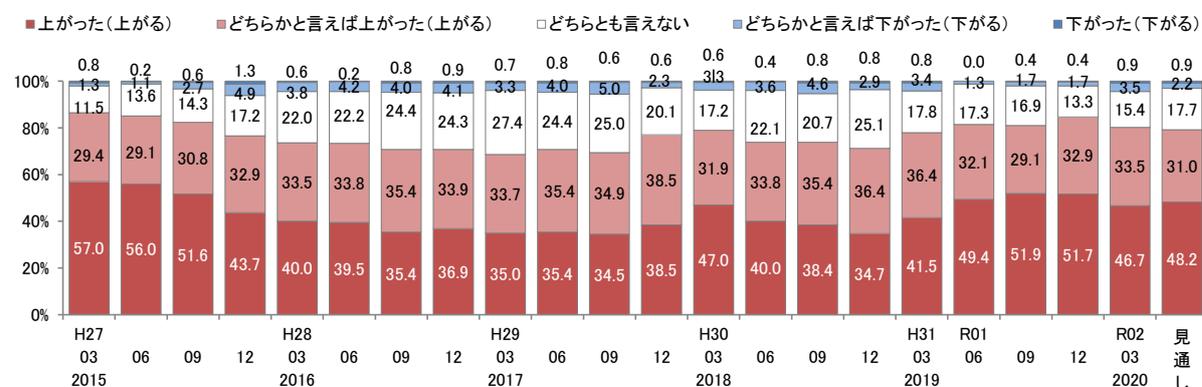
① 景気 (県内)



② 雇用環境



③ 物価 (日用品)



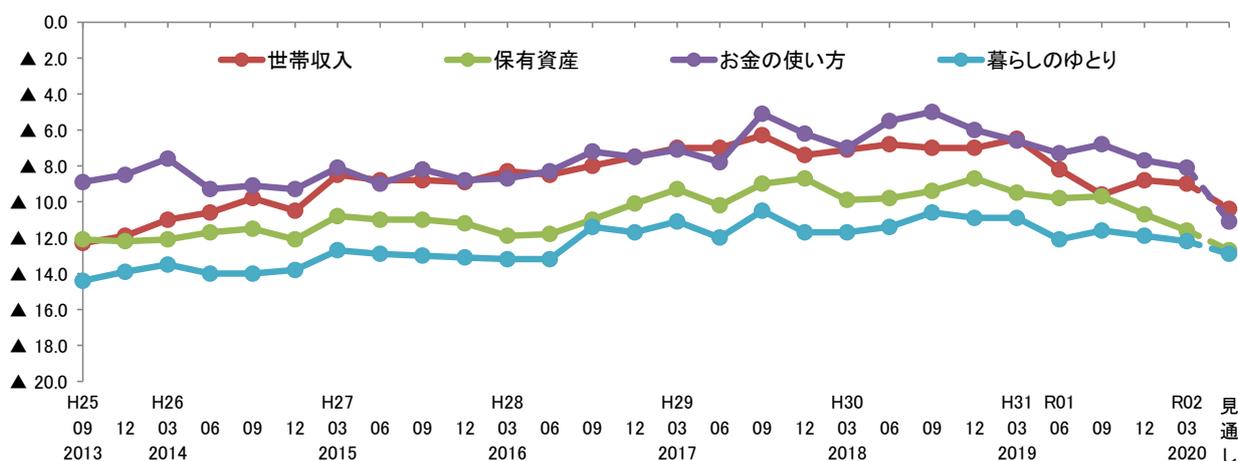
## 2. 暮らし向き判断

### (1) 暮らし向き判断の概況

暮らし向き判断指数は▲40.9（前期比 1.8 ポイント下落）と 6 期連続で悪化となった。暮らし向き判断指数を構成する 4 つの指数については、「世帯収入」が▲9.0（前期比 0.2 ポイント下落）、「保有資産」が▲11.6（前期比 0.9 ポイント下落）、「お金の使い方」が▲8.1（前期比 0.4 ポイント下落）、「暮らしのゆとり」が▲12.2（前期比 0.3 ポイント下落）と、「世帯収入」が 2 期ぶりに悪化、「保有資産」「お金の使い方」「暮らしのゆとり」が 2 期連続で悪化となった。

今後の見通しについては、▲47.1（今回調査比 6.2 ポイント下落）とさらなる悪化が見込まれている。

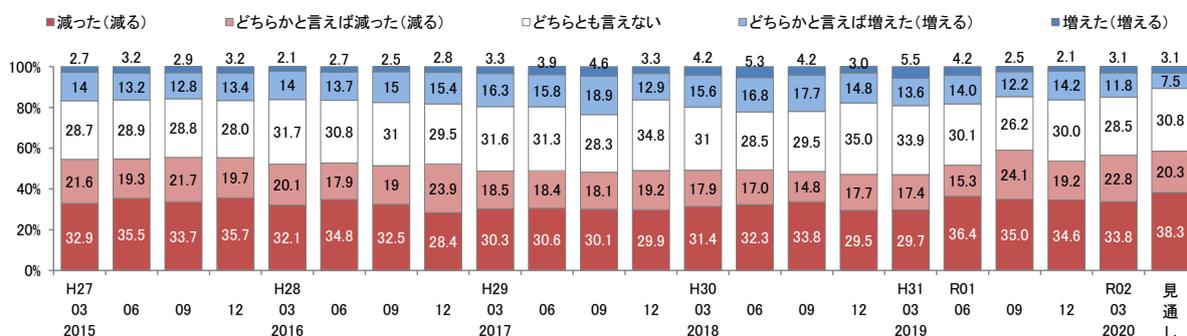
図表 4 暮らし向き判断指数（内訳）の推移



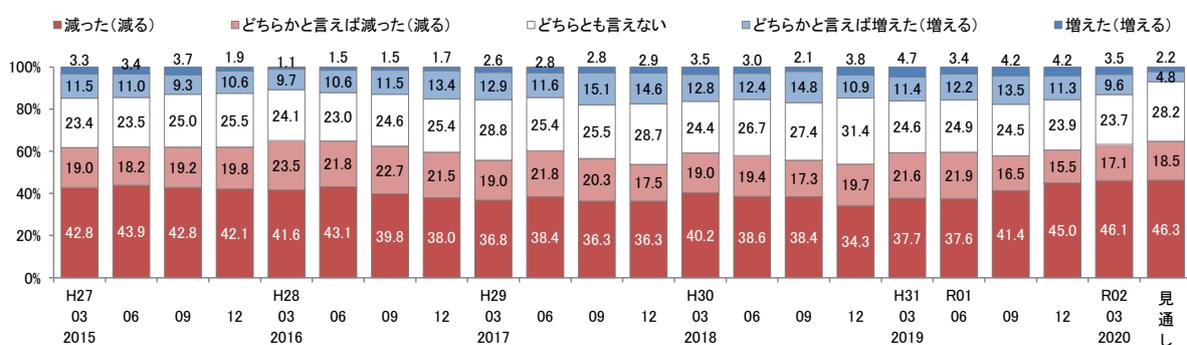
調査時期	暮らし向き判断指数					
	暮らし向き判断指数	世帯収入	保有資産	お金の使い方	暮らしのゆとり	
30年	9月	▲ 32.0	▲ 7.0	▲ 9.4	▲ 5.0	▲ 10.6
	12月	▲ 32.6	▲ 7.0	▲ 8.7	▲ 6.0	▲ 10.9
31年	3月	▲ 33.5	▲ 6.5	▲ 9.5	▲ 6.6	▲ 10.9
01年	6月	▲ 37.4	▲ 8.2	▲ 9.8	▲ 7.3	▲ 12.1
	9月	▲ 37.7	▲ 9.6	▲ 9.7	▲ 6.8	▲ 11.6
	12月	▲ 39.1	▲ 8.8	▲ 10.7	▲ 7.7	▲ 11.9
02年	3月	▲ 40.9	▲ 9.0	▲ 11.6	▲ 8.1	▲ 12.2
	(前期比)	(▲ 1.8)	(▲ 0.2)	(▲ 0.9)	(▲ 0.4)	(▲ 0.3)
	(前年同期比)	(▲ 7.4)	(▲ 2.5)	(▲ 2.1)	(▲ 1.5)	(▲ 1.3)
02年	見通し	▲ 47.1	▲ 10.4	▲ 12.7	▲ 11.1	▲ 12.9
	(前期比)	(▲ 6.2)	(▲ 1.4)	(▲ 1.1)	(▲ 3.0)	(▲ 0.7)

## (2) 暮らし向き判断の推移

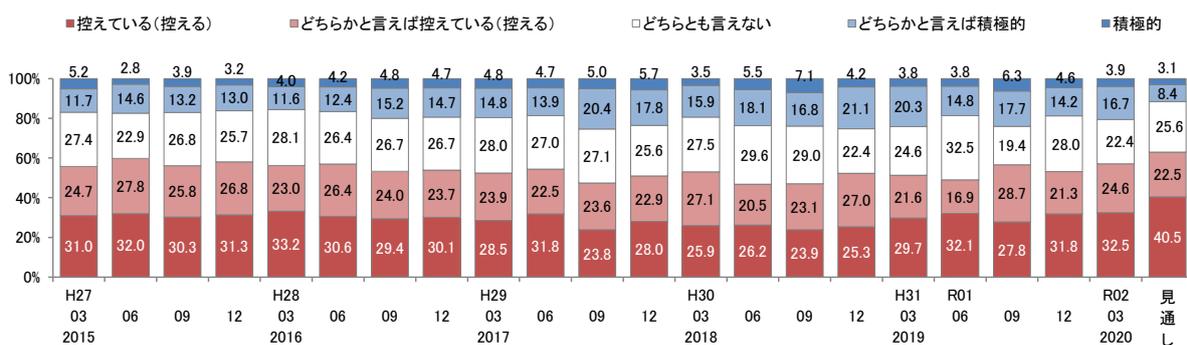
### ① 世帯（勤労）収入



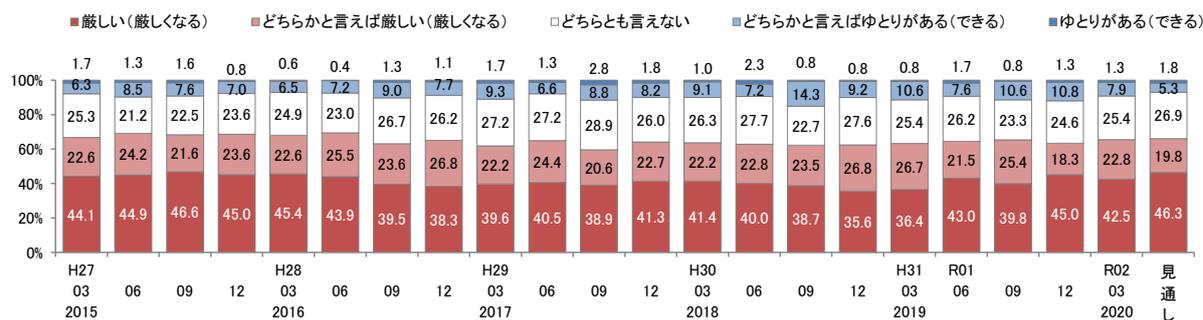
### ② 保有資産



### ③ お金の使い方



### ④ 暮らしのゆとり



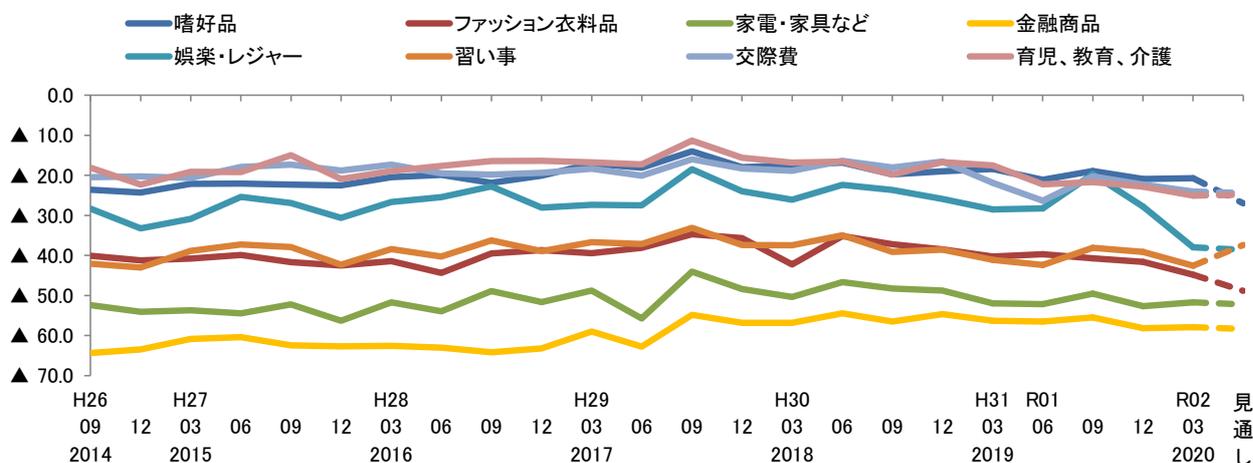
### III. 支出意向

#### (1) 支出意向DIの推移

支出意向DIの平均値は、▲38.1（前期比2.4ポイント下落）と2期連続で悪化となった。支出意向DIを構成する8つの項目をみると、「嗜好品」「金融商品」がほぼ横ばい、「家電・家具」が2期ぶりに小幅な改善となったものの、その他の5項目では悪化となった。中でも「娯楽・レジャー」は▲38.0（前期比10.2ポイント下落）と悪化幅が大きくなっている。

今後の見通しは、▲39.0（今回調査比0.9ポイント下落）と悪化の見込みとなっている。

図表5 支出意向DIの推移



調査時期	支出意向DI									
	嗜好品	ファッション衣料品	家電・家具	金融商品	娯楽レジャー	習い事	交際費	育児・教育・介護		
30年 12月	▲ 32.3	▲ 19.0	▲ 38.5	▲ 48.8	▲ 54.7	▲ 25.9	▲ 38.6	▲ 16.6	▲ 16.7	
31年 3月	▲ 34.5	▲ 18.5	▲ 40.3	▲ 52.0	▲ 56.4	▲ 28.6	▲ 41.1	▲ 21.9	▲ 17.6	
01年	6月	▲ 36.1	▲ 21.1	▲ 39.7	▲ 52.2	▲ 56.5	▲ 28.3	▲ 42.4	▲ 26.4	▲ 22.3
	9月	▲ 33.1	▲ 19.0	▲ 40.8	▲ 49.6	▲ 55.5	▲ 19.7	▲ 38.1	▲ 20.3	▲ 21.7
	12月	▲ 35.7	▲ 20.9	▲ 41.7	▲ 52.7	▲ 58.2	▲ 27.8	▲ 39.2	▲ 22.3	▲ 22.9
02年	3月	▲ 38.1	▲ 20.7	▲ 44.8	▲ 51.8	▲ 57.9	▲ 38.0	▲ 42.6	▲ 24.1	▲ 25.1
	(前期比)	(▲ 2.4)	(0.2)	(▲ 3.2)	(0.9)	(0.3)	(▲ 10.2)	(▲ 3.4)	(▲ 1.8)	(▲ 2.3)
	(前年同期比)	(▲ 3.6)	(▲ 2.3)	(▲ 4.6)	(0.2)	(▲ 1.6)	(▲ 9.5)	(▲ 1.5)	(▲ 2.2)	(▲ 7.6)
02年	見通し	▲ 39.0	▲ 27.0	▲ 48.9	▲ 52.3	▲ 58.4	▲ 38.7	▲ 37.4	▲ 24.5	▲ 24.9
	(前期比)	(▲ 0.9)	(▲ 6.3)	(▲ 4.1)	(▲ 0.5)	(▲ 0.5)	(▲ 0.6)	(5.2)	(▲ 0.4)	(0.2)

#### 【DI値の見方】

各項目とも、現状判断についてそれぞれDI値を算出する。DI値とは、Diffusion Index（ディフュージョン・インデックス）の略で、算出方法は次の通り。

数値は四捨五入により一致しない場合があります。

例) 嗜好品DI値

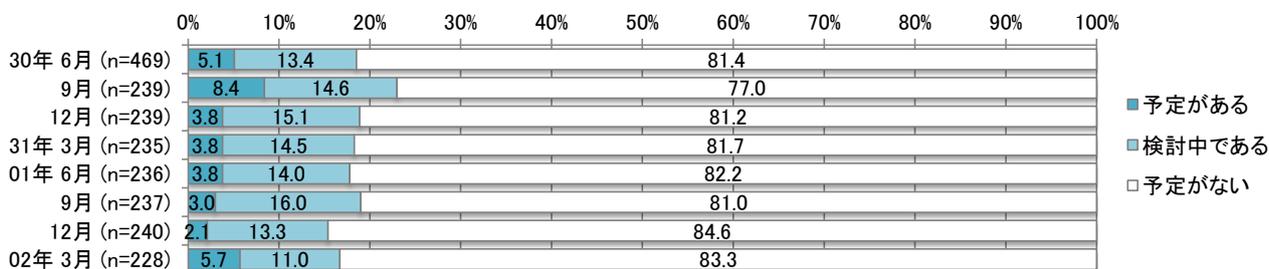
= (「1. 意欲的である」と回答した世帯の割合×1.0+「2. どちらかと言えば意欲的である」と回答した世帯の割合×0.5) - (「3. どちらかと言えば控える」と回答した世帯の割合×0.5+「4. 控えている」と回答した世帯の割合×1.0)

(2) 支出意向 (大きな買い物) の推移

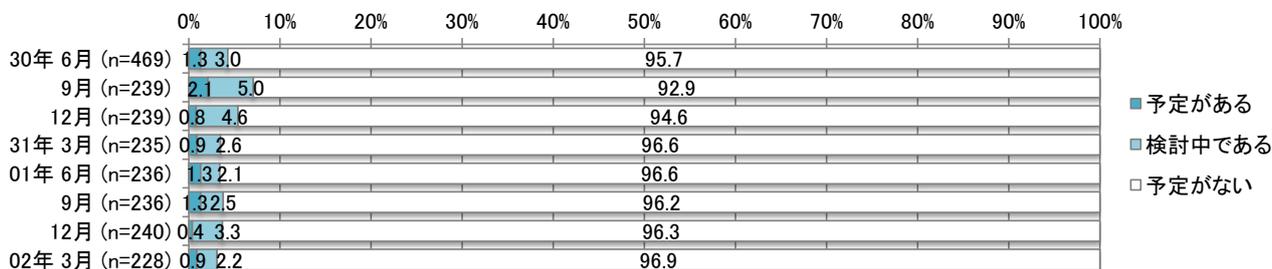
大きな買い物の支出意向をみると、「予定がある」と回答した世帯の割合は、「自家用車 (中古車含む)」が5.7% (前期比3.6ポイント上昇)、「住宅 (マンション・中古住宅含む)・土地」が0.9% (前期比0.5ポイント上昇)、「住宅リフォーム」が1.3% (前期比1.6ポイント低下)、「海外旅行」は0.4% (前期比0.9ポイント低下)と、「自家用車 (中古車含む)」「住宅 (マンション・中古住宅含む)・土地」で上昇した一方、「住宅リフォーム」と「海外旅行」で低下した。

大きな買い物 (支出) に前向きな世帯 (「予定がある」に「検討中である」を合わせた世帯) の割合は、「自家用車」「住宅リフォーム」で上昇した一方、「住宅 (マンション・中古住宅含む)・土地」「海外旅行」で低下した。

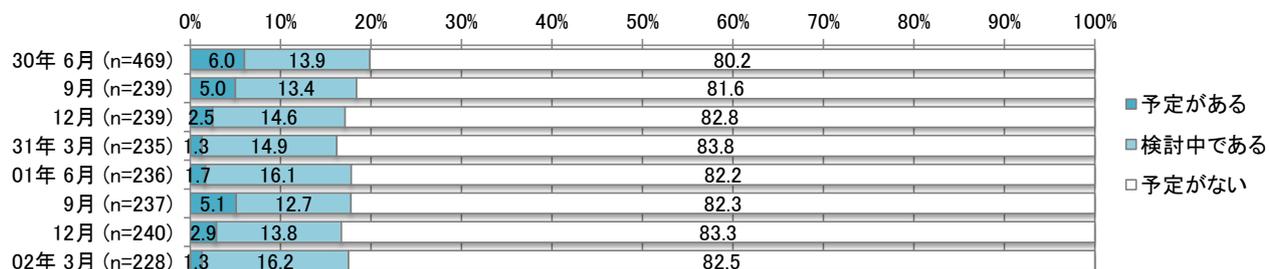
図表 6 自家用車 (中古車含む)



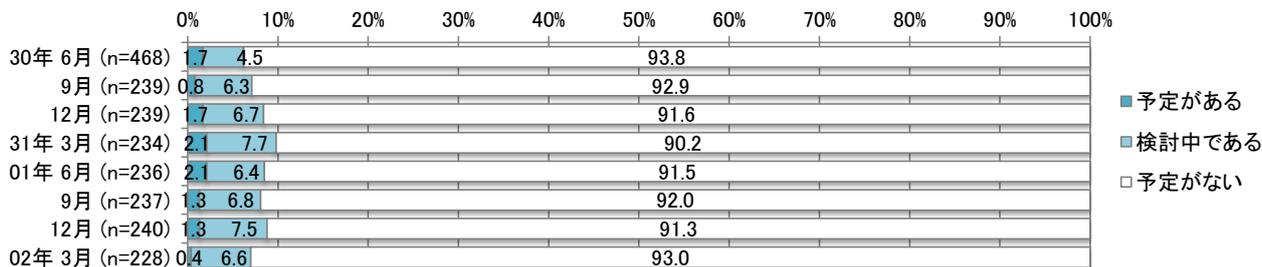
図表 7 住宅 (マンション・中古住宅含む)・土地



図表 8 住宅リフォーム

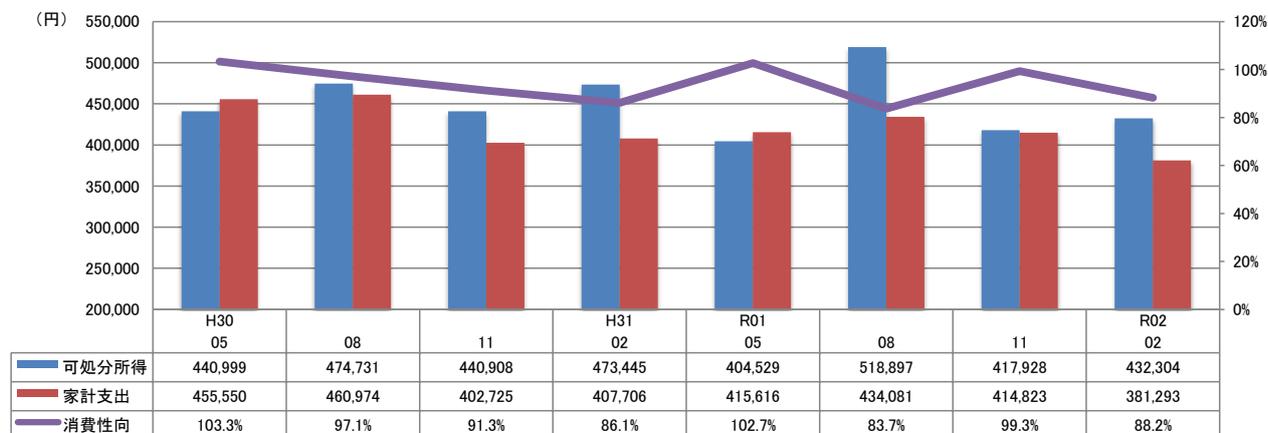


図表 9 海外旅行





図表 11 家計の収支と平均消費性向の推移



家計簿調査によれば、収入面では可処分所得（収入の手取り額）が 432 千円と前年同期に比べて 41 千円の減少となった。収入のうち、「世帯勤労収入合計（手取り額）」は 361 千円（前年同期比 5 千円減少）で、内訳は、「世帯主の勤労収入合計（手取り額）」が 258 千円（前年同期比 3 千円減少）、「世帯員の勤労収入合計（手取り額）」が 104 千円（前年同期比 2 千円の減少）であった。「その他収入（控除後）」は 71 千円（前年同期比 36 千円減少）で、内訳をみると、減少額の大きな項目は、「有価証券売却・解約金（株、投資信託など）」（前年同期比 25 千円減少）、「相続、贈与、退職金」（前年同期比 9 千円減少）、「借入れ（カードローン、キャッシング）」（前年同期比 7 千円減少）となった一方、大きく増加した項目はなかった。

支出面では、支出計が 381 千円と前年同期比で 26 千円の減少となった。内訳をみると、減少額の大きな項目は「小遣い、その他」（前年同期比 13 千円減少）、「金融商品 1（株、国債、外貨、金など）」（前年同期比 8 千円減少）となった一方、大きく増加した項目はなかった。

この結果、平均消費性向（家計支出/可処分所得）は 88.2%となり、前年同期に比べて 2.1 ポイントの上昇となった。

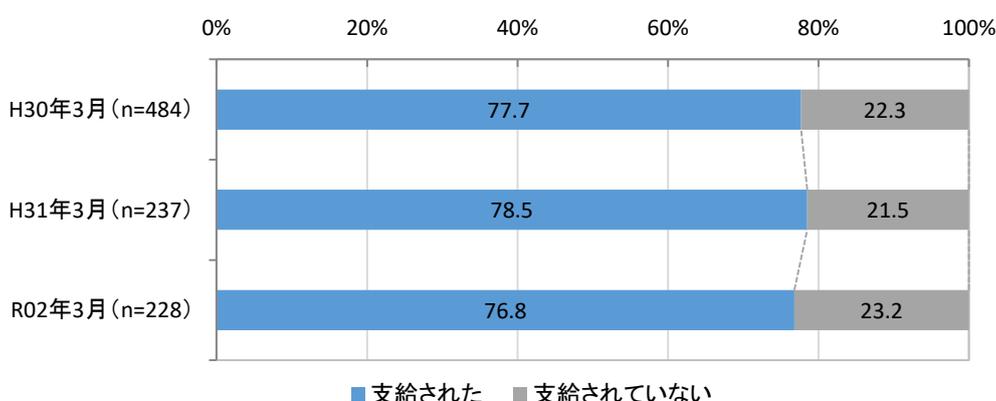
## V. 特別調査

### 1. 冬季ボーナスについて

#### (1) 冬季ボーナス支給の有無

家計の主たる収入を得ている人について、冬季ボーナスが支給されたかどうかを尋ねたところ、「支給された」が76.8%（前年比1.7ポイント低下）、「支給されていない」が23.2%と、前年と同様に7割以上の世帯が「支給された」と回答している。

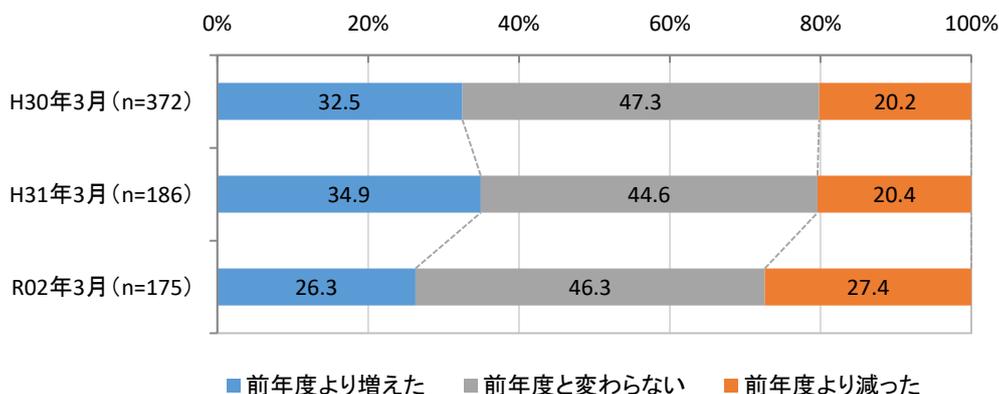
図表 12 冬季ボーナス支給の有無



#### (2) 支給額の変化について

冬季ボーナスが「支給された」と回答した世帯に、前年度冬季と比べた支給額の変化について尋ねたところ、「前年度と変わらない」が46.3%（前年比1.7ポイント上昇）と前年同様に最も高く、次いで「前年度より減った」が27.4%（前年比7.0ポイント上昇）、「前年度より増えた」が26.3%（前年比8.6ポイント低下）となっている。

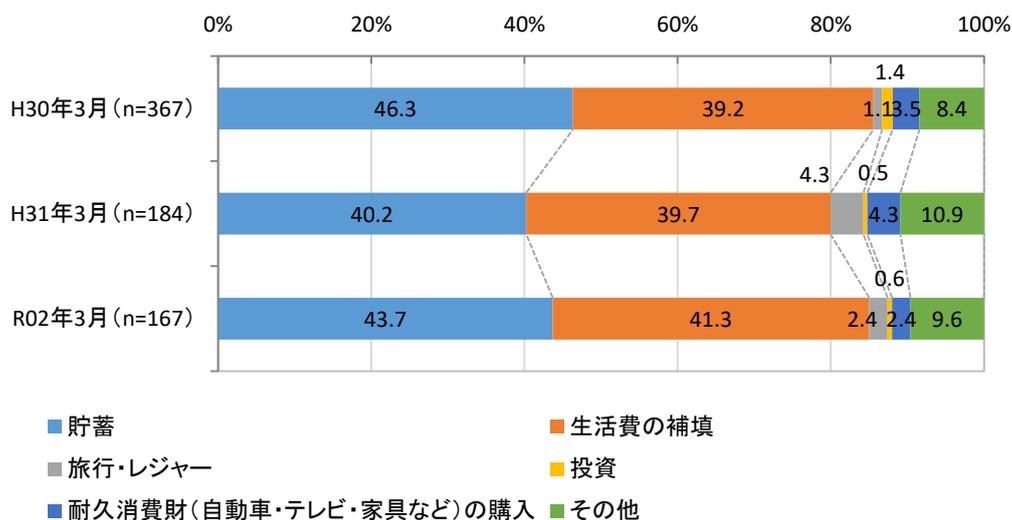
図表 13 前年度冬季と比べた場合の支給額の変化



### (3) 主な使い道

冬季ボーナスが「支給された」と回答した世帯に、ボーナスの使い道（もっとも金額が大きいもの）を尋ねたところ、「貯蓄」が 43.7%（前年比 3.5 ポイント上昇）と最も高く、次いで「生活費の補填」が 41.3%（前年比 1.6 ポイント上昇）となり、これら 2 項目は前年に比べ上昇となっている。

図表 14 冬季ボーナスの主な使い道

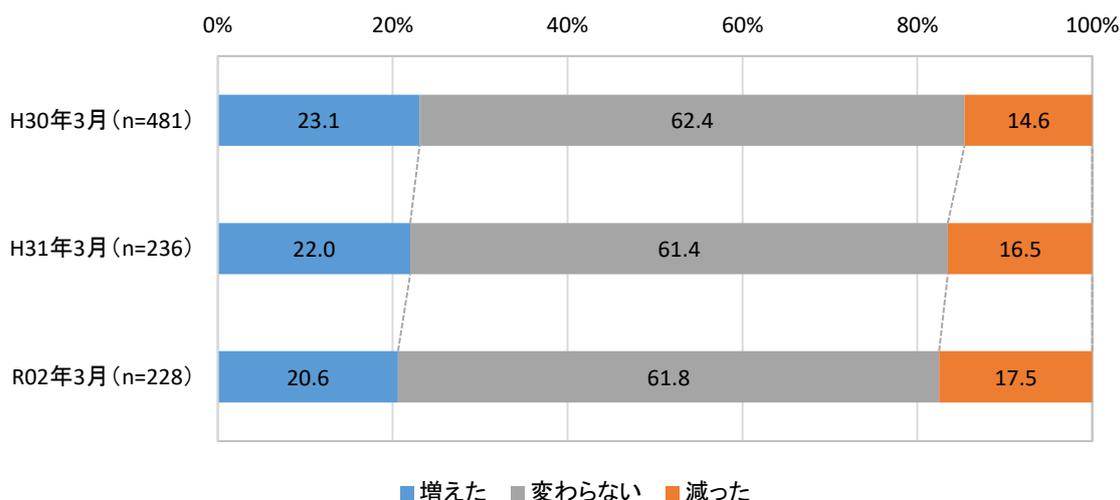


## 2. 最近の給与の実態について

### (1) 定期給与の増減について

家計の主たる収入を得ている人について、平成 31 年 4 月以降、定期給与（残業代を除く）が増えたかどうか尋ねたところ、「変わらない」が 61.8%（前年比 0.4 ポイント上昇）と最も高く、次いで「増えた」が 20.6%（前年比 1.4 ポイント低下）、「減った」が 17.5%（前年比 1.0 ポイント上昇）となっている。

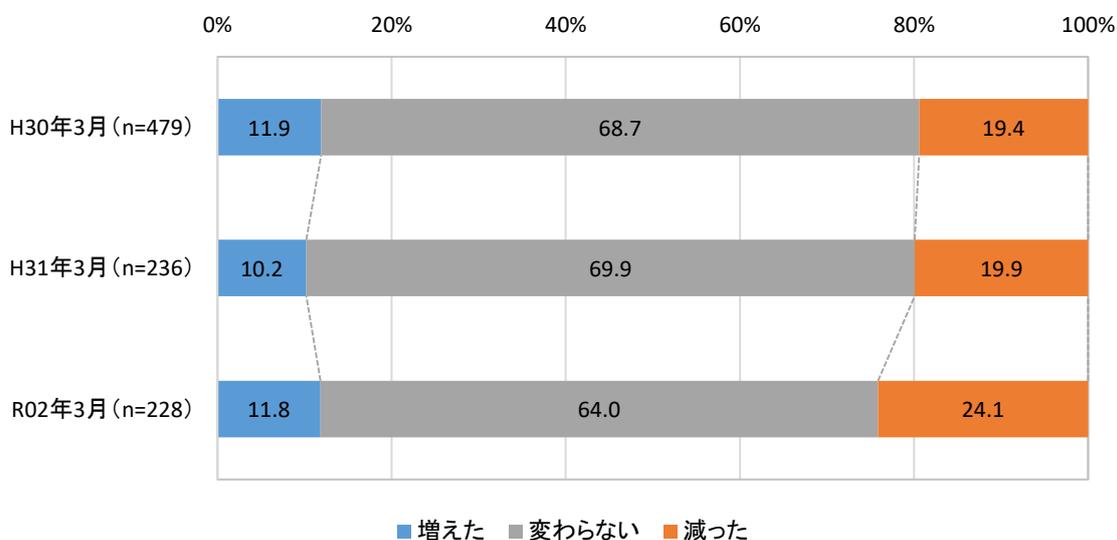
図表 15 定期給与の増減について



### (2) 残業代の増減について

家計の主たる収入を得ている人について、平成 31 年 4 月以降、残業代が増えたかどうか尋ねたところ、「変わらない」が 64.0%（前年比 5.9 ポイント低下）と最も高くなっている。次いで「減った」が 24.1%（前年比 4.2 ポイント上昇）、「増えた」が 11.8%（前年比 1.6 ポイント上昇）となっている。

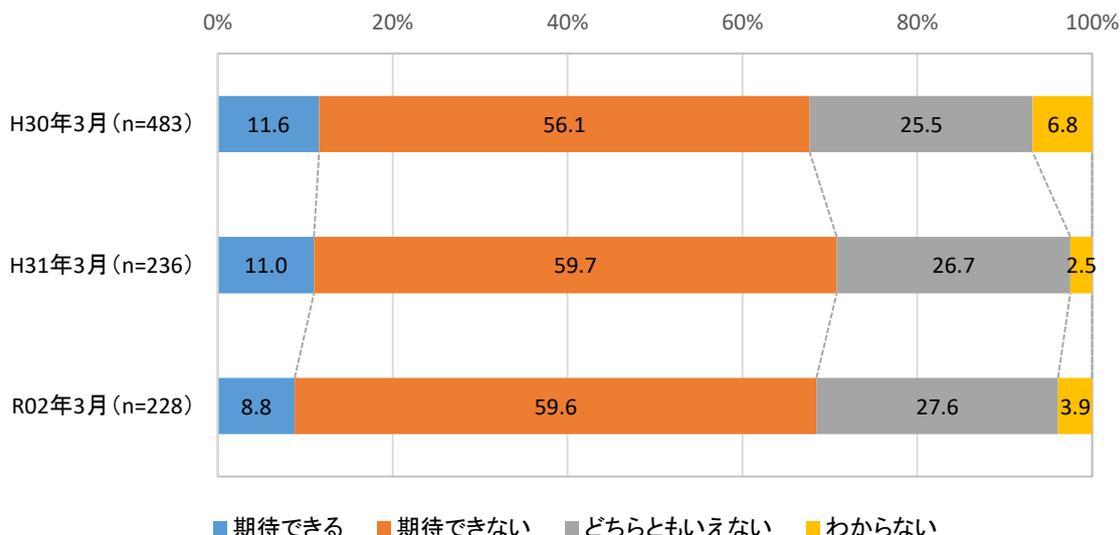
図表 16 残業代の増減について



(3) 今後 1 年間における定期給与増額への期待感について

家計の主たる収入を得ている人について、この先 1 年間（令和 2 年 4 月～令和 3 年 3 月）に定期給与（残業代を除く）が増えることが期待できるかどうか尋ねたところ、「期待できない」が 59.6%（前年比 0.1 ポイント低下）と最も高く、前年同様に約 6 割を占めている。次いで「どちらともいえない」が 27.6%（前年比 0.9 ポイント上昇）、「期待できる」が 8.8%（前年比 2.2 ポイント低下）となっている。

図表 17 今後 1 年間における定期給与増額への期待感



## VI. 調査の概要

### 1. 調査の目的

山形県民の暮らし向きや今後の見通しについて時系列的に捉えるとともに、具体的な商品やサービスに対する支出動向を把握することにより、景気判断等の基礎資料を得ることを目的とする。

### 2. 調査の内容

- ◆ 郵送調査専用モニターを利用したアンケート調査
- ◆ モニター世帯数：253 世帯 有効回答数：229 世帯 回答率：90.5%

### 3. 回答モニター属性



### 4. 調査の対象者

- ・山形県内に在住する勤労者（サラリーマン）世帯（世帯人数 2 人以上の世帯）

### 5. 調査期間

- ・令和 2 年 3 月 2 日（月）～13 日（金）

#### <お問い合わせ先>

株式会社フィデア情報総研  
 リサーチ&コンサルティング事業本部 熊本 均 / 松田 美由紀  
 〒990-0043 山形県山形市本町1-4-21 荘銀山形ビル8F  
 TEL : 023-626-9017 FAX : 023-626-9038  
 E-mail : kenkyuu@fir.co.jp URL : https://www.fir.co.jp/